



みんなのできる 地球温暖化防止活動

—父と二人で時々、安達太良山に登るんです!!—

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人つくしまNPOネットワーク)

■安達太良山頂に、新しい看板を寄贈しました……

二本松市在住の安齋裕美子さんのお仕事は、社会福祉関係団体の職員です。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者の生活などの相談が仕事です。そんな仕事の合間に、「父と一緒によく、安達太良山に登山します。登山しながら清掃活動をして、なじみの山の環境保全に努めています。」5が三つも重なったこどもの日に、山頂に安達太良山の形の本製の看板を寄贈したという知らせがありました。

■推進員になったきっかけ

2022年春に開催された「ふくしま森の学校」つなげよう、支えよう山川里、そして海」(SAVE JAPANプロジェクト)に参加し、自然はみんなつながっていることを学び、環境保全の興味が強くなったと言います。「そんな時に、うつくしま地球温暖化防止活動推進員養成研修会があることを知り、温暖化

が自然に影響を与えているだろうと思い参加し、推進員になりました。」

■オーストラリアでの大規模森林火災

「自然に対する関心は以前からありました。2019年に発生したオーストラリアの大規模な森林火災は、燃え上がる炎が人家に迫り、カンガルーやコアラなどの動物が逃げ惑う様子に心が痛みました。息子が留学していて心配でした。」同年の9月、環境活動家グレッタ・トゥーンベリさんが、温室効果ガスをたくさん排出する飛行機を使わず、ヨットで大西洋を横断して国連の会議に参加したニュースをみて「16歳のグレッタさんの『怒りのスピーチ』に衝撃を受けました。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

安齋さんは、福島県2050年カーボンニュートラルロードマップの研修会や、森の防潮堤協会主催の海岸での植樹やプラスチックごみの回収などにも参加しました。「毎日の生活ではゴミの分別をきちっと行う、冷暖房の温度管理を適切に行う、節電や節水に気を付ける。」「猪苗代湖の湖畔を散策する。安積疏水の流路を地図で確かめると、一本の水路から環境保全に係るたくさんの気づきがあるはずです。」

地球温暖化防止活動は、毎日の生活の中にあります。

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>